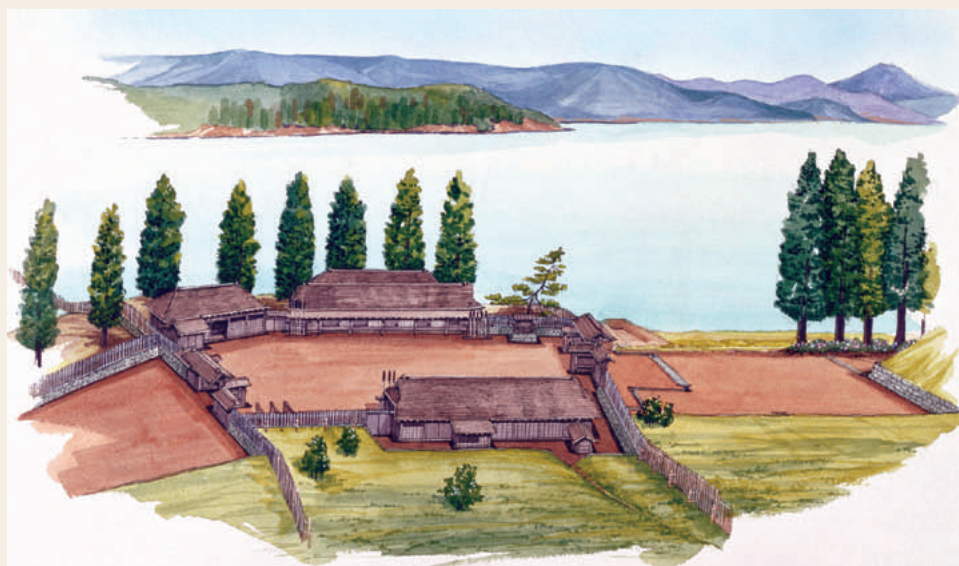
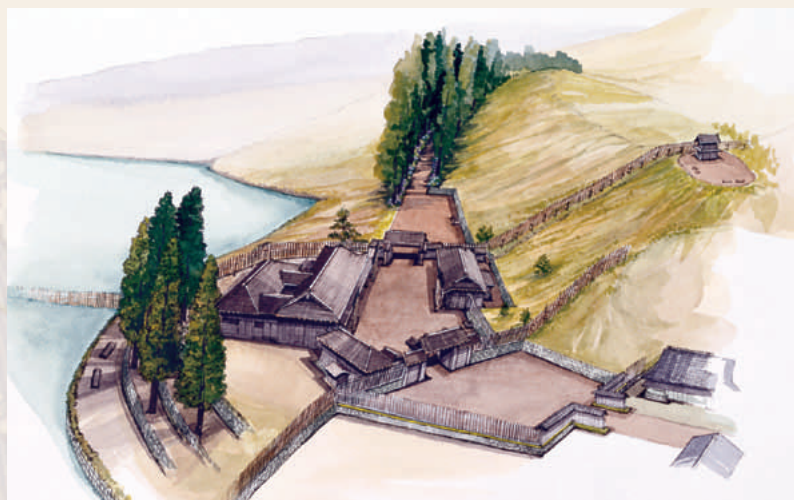


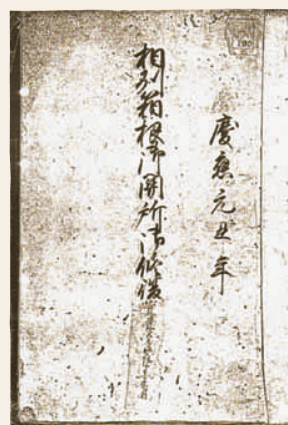
よみがえる箱根関所

平成19年春、復元された

箱根関所がお目見え!



完成予想図



『相州箱根御関所御修復出来形帳』の表紙

箱根関所が現在の場所に置かれたのは、江戸時代の初期、元和5年(1619)のことといわれています。徳川幕府は、全国53か所に関所を設けましたが、その中でも、中山道の木曾福島(長野県)、碓氷(群馬県)、東海道の新居(静岡県)、そして、箱根(神奈川県)を重要な関所と位置づけま

した。

江戸時代の末期、慶応元年(1865)に行われた箱根関所の解体修理の詳細な報告書である『相州箱根御関所御修復出来形帳(そうしゅうはこねおせきしよごしゅうふくできがたちょう)』が静岡県韮山町の江川文庫から、近年発見されました。箱根町で

は、この資料の解読を行った結果、当時の箱根関所の建物や構造物などの全貌を知ることとなりました。

そこで、平成19年(2007)の春の完成をめざして、発掘調査を行い、その成果や資料の分析結果に基づき、建物の復元や環境整備などを進めています。

箱根関所は今どうなっているの？

発掘調査終わる！

平成11年度から13年度までの3か年をかけて発掘調査を行い、資料との整合性や遺構の残存状況の確認を行いました。この成果の一部をご紹介します。



大番所・上番休息所 (写真1)

礎石群は南側の1/3が残存していました。さらに、この下面を試掘調査したところ、1m以上の盛土が確認され、徳川幕府が、関所を設置する際に、この周辺を大規模に造成していることも分かりました。

遠見番所 (写真2)

丘陵の頂部で、遠見番所が置かれていた場所が確認されました。その場所からは、土塁（どるい）の跡や礎石、石列などが発見されました。



石橋 (写真3)

石橋は、箱根関所の山側から湖側への暗渠（あんきょ）の排水路として使われていました。発掘調査を行った結果、蓋石や縁石の一部が発見されました。

京口御門 (写真4)

現在の道路の下を発掘調査したところ、本柱や控柱、脇柱を据えた跡や柱を支えるために立てて埋め込まれたと思われる板石が発見されました。



江戸口千人溜りの石垣復元 (写真5,6)

発掘調査の終わった江戸口千人溜りについて、資料の解析や発掘調査の成果に基づき、崩落してしまった石垣は元に戻し、失われてしまった石垣は新たに補充をして、江戸時代の姿に戻しました。



新谷町地区（しんやちょうちく）の杉並木の保護 (写真7,8)

調査の結果、杉の枯損が進み、このままの状態では、並木としての形態を保てなくなってしまう恐れが出てきました。そこで、杉の栄養根の発育を促すために、発根促進材などを使い、土壌改良を行いました。

昭和40年に開設した御番所は、その下の発掘調査を進めるために、一部を京口千人溜りの湖側に移設をして、箱根関所資料館と共に営業をしています。



出女に入り鉄砲

関所小咄

箱根関所では、入鉄砲の取り締まりは行いませんでした！箱根関所では、人質として江戸に置いた大名の妻子の帰国を取り締まるため、「出女」に対し厳しい監視の目を光らせてました。しかし実際は、農家の女性まで、関所手形がないと、箱根関所は絶対に通れませんでした。

箱根町教育委員会生涯学習課
箱根関所整備事業推進室

TEL 0460-5-7601

<http://www.hakonesekisho.jp>